

宮島(厳島)の代表的な海岸性昆虫



生きものの便り、復活第二弾は、私が生まれ育った宮島(厳島)の代表的な海岸性昆虫です。

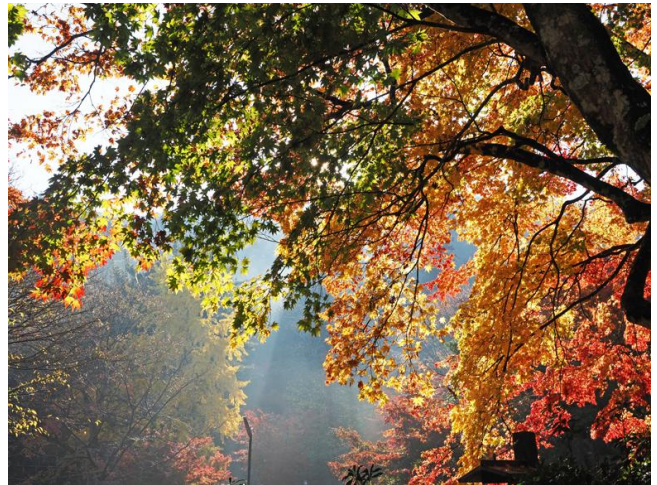
私は、宮島で生まれ、大学で上京し、就職するまでは宮島に住んでいました。

宮島での生活は不便なことも沢山あるのですが、良いところは、草木の開花や紅葉と昆虫の発生などに加え、厳島神社の神事で、季節の移り変わりを身近に感じる事が来る事にあります。

今でも、昆虫の発生時期や厳島神社の神事に合わせて、年数回は帰省しています。



瀬戸内海を背景に咲くシダレザクラ



紅葉谷の紅葉



桃花祭御神能（春）



管絃祭（夏）



菊花祭（秋）



鎮火祭（冬）

宮島は、廿日市市の最南部、広島湾の北西部にある島で、面積約 3,020ha のほぼ長方形の島で、「安芸の宮島」として日本三景の一つに数えられています。

宮島は平地が少なく山が急峻で、最高峰の弥山(535 m)をはじめ駒ケ林(509 m)と岩船岳(466.6 m)があります。

厳島神社の背後にある弥山原始林は、暖地性温帯林の代表的なものとして 1929 年に国の天然記念物に指定されました。島の全域は 1934 年に瀬戸内海国立公園に編入され、1957 年に特別保護地区（弥山周辺や弥山原始林）や特別地区（特別保護地区を除く地域）となっています。また、1952 年には国の特別史跡及び特別名勝にも指定され、島全体および一部の周辺海域が世界文化遺産のバッファゾーンになっています。また、宮島西部の沿岸域は、ラムサール条約湿地として登録されています。

宮島の海岸は、瀬戸内海の海岸の 60%以上が人工もしくは半自然海岸となった今でも、汀線に工作物が存在しないまま残る貴重な自然海岸です。

海岸線は、砂の流出入の量のバランスにより、安定した形で保持されており、そこには、山間からの湧出水と大潮時に流入する海水とが混じり合う潮汐湿地が形成されています。



ハマゴウが群落を形成する砂浜



ヒトモススキが群落を形成する潮汐湿地

潮汐湿地の代表種は、ミヤジマトンボ(*Orthetrum poecilops*)です。

ミヤジマトンボは、山らかの水が流れ込む淡水域には産卵せず、他のトンボの幼虫が生息できない潮汐湿地（汽水域）で産卵・生育します。

ミヤジマトンボは、日本では宮島の限られた場所ではしか生息していないトンボで、宮島以外では、中国南部1箇所を確認されているだけです。

環境省 RDB 絶滅危惧 IA 類(CR)、広島県 RDB 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)、自然公園法の指定動物、広島県の特定野生生物種に指定されており採集が禁止されています。

ミヤジマトンボの観察は、生息地を目指して海岸線に沿った山道を、延々と歩くところから始まります。



海岸線に沿った山道



カキ養殖と大野瀬戸

いくつかの尾根と谷を越えて、汗だくになりながら、やっと生息地に到着です。

ザックを海岸に置き、カメラをセットして潮汐湿地の周りでミヤジマトンボを探します。

同所的にオオシオカラトンボなども生息していますが、腹部が細いため、見分けは簡単です。

ヒトモススキが群落から出てきた個体に絞ってシャッターを切ります。



ミヤジマトンボ オス



ミヤジマトンボ オス



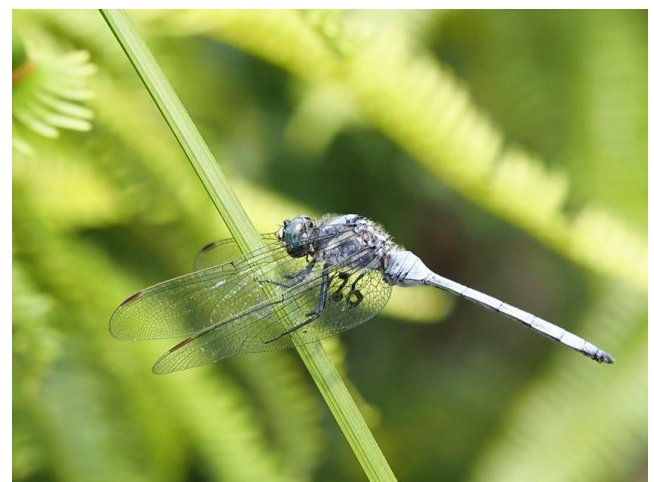
ミヤジマトンボ メス

ミヤジマトンボの幼虫(ヤゴ)は、生息地で観察することは出来ませんが、宮島水族館のバックヤードツアーに参加すれば、タイミングが良ければ見せてもらうことができるかもです。



ミヤジマトンボ 幼虫（宮島水族館で撮影）

保全活動としては、2005年9月に広島県を事務局とする「ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会」が設立され、個体数調査や生息環境の保全、普及啓発活動等が行われています。



マーキングされた個体

ハマゴウ等の海浜植物が生育する自然海岸の砂浜に生息する昆虫の代表は、ルイスハンミョウ(*Cicindela lewisi*)とヤマトマダラバッタ(*Epacromius japonicus*)です。

宮島では、比較的容易に観察することができ、ルイスハンミョウは少数ですが、厳島神社の近く、松原海岸にも生息しています。

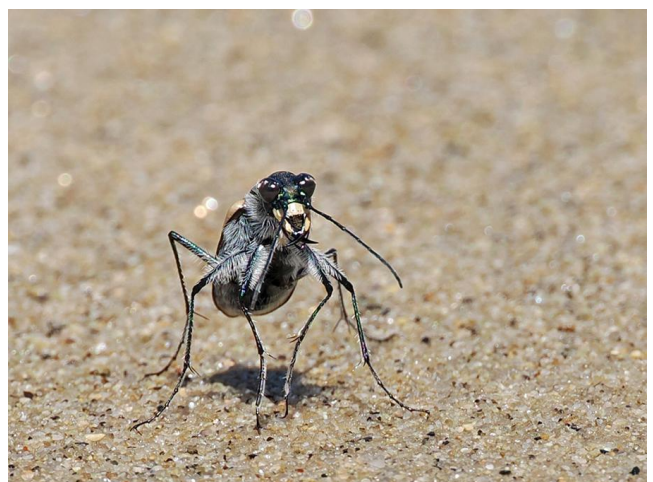
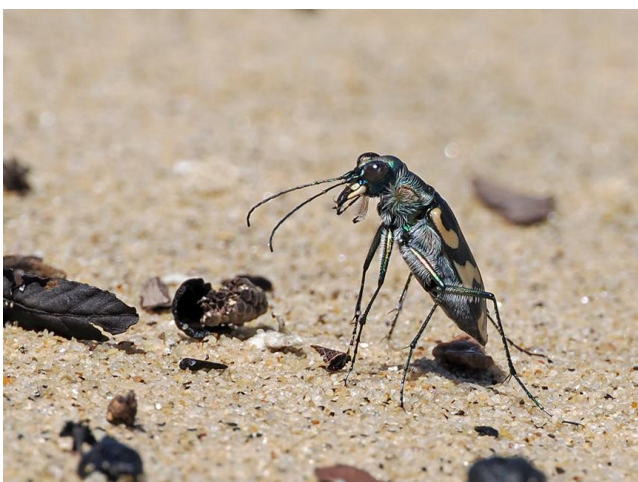


ルイスハンミョウとヤマトマダラバッタが生息する砂浜

ルイスハンミョウは大阪以西の本州から九州まで分布していますが、埋め立てや護岸工事に伴い生息場所が急速に減少しており、環境省 RDB で絶滅危惧ⅠB 類(EN)、広島県 RDB では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に位置づけられています。

成虫は、波打ち際近くを移動し、主としてヒメハマトビムシや小昆虫を捕食しています。幼虫は満潮線下部付近に縦穴を掘り、その中でヒメハマトビムシなどを捕食します。

宮島では 7 月～8 月に多く観ることができます。





ルイスハンミョウ

ヤマトマダラバッタは、成虫は7月～10月頃に観察することができ、主にイネ科植物や海浜性植物の葉を食べています。

海岸環境の開発による生息地の減少などにより、個体数が激減しており、広島県 RDB では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に位置づけられています。



ヤマトマダラバッタ



ヤマトマダラバッタ 成虫と幼虫

最後は、ウミアメンボです。宮島にはシロウミアメンボとケシウミアメンボが生息しており、両種共、満潮時には厳島神社の回廊や松原海岸でも観察する事が出来ます。

シロウミアメンボは、環境省 RDB で絶滅危惧Ⅱ類(VU)、広島県 RDB では絶滅危惧Ⅱ類(VU)に位置づけられています。



シロウミアメンボ (*Halobates matsumurai*)



ケシウミアメンボ (*Halovelia septentrionalis*)

宮島の 2024 年の年間来島者数は 485 万人に達しました。宮島には豊かな自然が残り、今回紹介した海岸性昆虫以外にも多くの動植物が生息しています。少しゆとりをもって入島し、宮島の自然に触れていただけると幸いです。